

神奈川大学附属中学校

算数

問題数は 20 問程度で、すべて答えのみを書く解答形式です。計算問題が必ず数問含まれます。そのほかは数量に関する問題と図形に関する問題をバランス良く出題します。難しい問題はありません。全問正解できる力をつけてください。1、2 は取り組みやすい問題を並べています。

国語

ある程度は読むスピードが必要です。記述問題では、設問で求められている内容を正確かつついでに書くことを心がけましょう。出題は漢字、国語に関する基礎知識、説明的な文章、文学的な文章の大問 4 題です。

理科

大問は 4 題で、物理・化学・生物・地学のすべての分野から出題します。各大問は、およそ 25 点ずつの配点で、実験・観察にかかわる問題が中心となります。グラフや図、そのほかのデータなどから思考させる問題も出題します。また、文章での解答を要求する問題も出題します(傾向として B 日程に多い)。漢字指定の問題もあります。

社会

大問は 4 題で、地理的分野 30%、歴史的分野 30%、公民的分野 20%、各分野を含んだ総合問題 20%の構成です。地理的分野はグラフの読み取りや読図のほか、産業・人口・自然環境・貿易における日本の特徴を理解することが大切です。また、日本と関係の深い国の特徴を問う問題もあります。歴史的分野は古代から現代までの重要な出来事や用語、人物に関する知識のほか、歴史的出来事の内容や背景について出題します。公民的分野は、日本の政治や社会の仕組みを中心に出题します。総合問題は、あるテーマに関連して地理・歴史・公民の各分野の視点から出題します。解答には漢字指定もあります。

関東学院中学校

算数

試験問題は50分です。昨年度はA、B、C、D日程とも計算問題を2問、小問を5問程度、大問(総合問題)を2題ほど出題しました。小問、大問ともに難易度は例年と同程度でした。大問は思考力を段階的に問う形式で、文章題、グラフ、平面図形、立体図形等の問題を出題する予定です。大問はいくつかの設問に分かれています。前半は小問と同程度の問題で、後半は前半がヒントになり解答できる場合もあります。問題をよく読んで、あきらめずに考える習慣をつけてください。出題の範囲は4回の日程のなかで、バランスを考え、偏りがないように心がけています。

国語

前年度は、「物語文」1題、「説明文」1題と、「漢字書き取り・読み」の大問3題という例年どおりのスタイルでした。しかし、文章は長くなり、問題の難易度は全体的に上がっています。各日程において、記述の問題は2問程度出題しています。あとは選択肢によって解答するという点は変わりません。選択肢による問題では、発問の中にいくつか複数の条件が入っており、その条件をすべて満たしている解答を選ぶ必要があります。微妙にずらされたことばを、的確に読み取っていくことが大切です。記述問題の字数は、従来の20字～40字から、35字～65字になりました。必要な条件を満たすキーワードを文中から見つけ、自分のことばでつないで、文末まで正確に書くことが求められます。また、前年度は、漢字の配点を、従来の1問「2点」から「1点」に改めました。

理科

試験時間は理科単独で30分で行います。入試問題は各日程とも大問が3題です。各日程において物理分野は必ず1題出題し、化学・生物・地学などから残り2題を出題します。最近の自然科学の話題といった発展内容、地球環境のように上記理科4分野を横断する内容を含むことがあります。基本的な用語は漢字で書くように指示した設問や、短い文を書かせる問題もあります。試験時間が短いので、できることから解答をしましょう。

社会

試験時間は社会単独で30分で行います。単語の丸暗記ではなく、内容が理解できているかどうかを問うため正誤判定問題も多くなります。歴史については、細かい単語を覚えているかどうかよりも、時代観がつかめているかどうかや、大きな歴史の流れを問う設問が多くなります。「〇〇時代の出来事を選べ」「古い順に並べ替えなさい」などです。地理は地図や資料の読み取りが出ます。公民分野では憲法に関する問題が多い傾向があります。また、日ごろから社会問題に興味を持ってもらいたいので、時事問題も頻出です。

公文国際学園中等部

【A入試(1科目選択)】

算数

一般入試(B入試)に比べ、計算問題・一行問題の割合が減り、さまざまな形で算数の力を見ていきます。B入試と同様、速く正確な計算力と、粘り強く考える力が必要です。

国語

問題構成は一般入試(B入試)と同じです。ただし、60分の試験となるため、問題文が長くなり、問題の難易度も増す可能性があります。文章を速く正確に読む読解力と記述力が必要です。

数学

数学検定3級以上の力が必要です。中学課程以下の問題を8割程度、高校課程以上の問題を2割程度出題します。

英語

従来の帰国生入試の問題を基本としています。ただし60分ということで、問題量が増えています。英検2級程度の問題を中心に出题します。また、日本語の能力も併せて確認する出題となっています。過去問を見てください。

【B入試】

算数

基本的な計算問題などの簡単な一行問題と、比・整数・速さなどの理解を問う問題Ⅰと、図形・応用・論理などで考える力を問う問題Ⅱ(一部に記述を含む)で構成されています。問題Ⅰは基礎・基本の確認と速くて正確な計算力が、問題Ⅱは図形・応用問題を試行錯誤しながら粘り強く考える力が必要です。また、さまざまな計算(つるかめ算、旅人算など)にも慣れておくといよいでしょう。

国語

(1)文学的文章(2)説明的文章、(3)漢字・慣用句・敬語・文法などの知識事項、という大問3題の構成です。長文を速く正確に読む力と、毎年5~6問出題される30~100字程度の記述問題への対策が必要です。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から満遍なく出題します。図や表、説明文を正しく読み取り、それを利用して問題を解決する力を養ってください。

社会

地理・歴史・公民の3分野から満遍なく出題します。時事問題に関心を持つとともに、新

聞記事やデータと自分の持っている基礎知識や用語を関連づけて考える練習をしましょう。

湘南学園中学校

算数

最初の計算問題と小問集合を、正確に、ある程度スピーディーに解くことが大切です。速さや食塩水の問題は必ず出題しています。その次に、面積や体積の問題が出題され、そこでは円周率(3.14)に関する計算ミスをしないことが大切です。最後は総合の文章問題ですが、(1)(2)までは問題文を読み取れば、解ける問題となっています。A日程午後入試については、問題の形式は他の日程と同じですが、全体的な難易度が高くなっています。

国語

読解問題は2題で、詩の出題はありません。漢字の読み書き、ことばに関する知識問題は必ず出します。記述問題では文末処理や誤字による減点があります。A日程午後入試も同じですが、読解問題の問題形式は、選択肢問題と抜き出し問題のみでの出題となり、選択肢の区別が難しい問題になっています。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から満遍なく出題しています。配点は物理・化学がそれぞれ30点程度、生物・地学がそれぞれ20点程度です。ほとんどの問題が実験や観察を題材にしたものとなっており、実験方法や実験器具の使い方について問う問題、実験結果をもとに考えを進めていく形式の問題が多く出題されます。光合成・酸素などといった知識を問う問題もありますが、グラフや表のデータを読み取り、そのデータをもとに比例などの簡単な計算を行う問題も多く出題されます。

社会

地理・歴史・総合の3題が一般的です。地理ではいくつかの都道府県や地域の特色を問うものが多くなっています。歴史では人物などの暗記よりも、歴史の流れや同じ時代の政治・経済・文化・外交の関連性を重視しています。総合には時事問題も含まれ、グラフや表を読み取る出題もあります。漢字指定のある設問以外は、仮名表記でも可です。

桐光学園中学校 男子部・女子部

算数

配点は150点満点、試験時間は50分で、ほぼ例年どおりの出題です。規則性・場合の数・割合・速さなどに関しての大問(文章題)を例年出題しています。基礎レベルの問題は全問正解を、標準レベルは6割以上の正解を目標にしてください。時間内に9割解答できる計算の速さや考えの熟練が必要です。実際に図やモデルを描いて考えることが大切です。

国語

配点は150点満点、試験時間は50分で、ほぼ例年どおりの出題です。長めの文章をスピーディーに読み、説明文では文章全体の構成や主張、物語文では人物の心情の変化をつかみましょう。また選択肢の微妙な差異に注意してください。漢字・語句の意味、接続詞や副詞の空欄補充などの問題も出題します。

理科

配点は100点満点、試験時間は40分で、ほぼ例年どおりの出題です。物理・化学・生物・地学の4分野から、2～3分野の融合問題も出題します。実験結果をもとに作られたグラフや表の見方に慣れておいてください。教科書に載っている図・絵・写真をチェックしておきましょう。

社会

配点は100点満点、試験時間は40分で、ほぼ例年どおりの出題です。地理と歴史、歴史と公民といった融合問題を出題するほか、外交や国際関係についても出題します。身近な社会・生活や、新聞・テレビで話題の時事問題にも関心を持ちましょう。

森村学園中等部

算数

①計算問題(標準的な四則計算)、②一行問題(速さ・仕事・濃度など、算数で扱う基本的な数量関係を問う問題)、③～⑥図形に関する問題(線の長さ・面積・体積・角度などを問う問題)、融合問題(グラフを読み取る、数え上げる、比を用いるなど、工夫を必要とする問題)で構成されます。融合問題の場合、小問を解き進めることで、解答にたどり着くこともあります。全問を通していえることですが、円周率は3.14として計算してください。解答欄にはすべて単位を記入済みです。また、既約できていない分数は減点となります。適宜、途中点があります。

国語

問題冊子は13～14ページ程度です。配点88点の読解問題は、(1)説明的文章、(2)文学的文章(ともに44点前後)の順に配列しています。それぞれ3000～4000字程度の文章、10問前後の設問が目安ですが、どちらも文章の難度によって多少の増減があります。(3)は配点12点の漢字の読み書き問題で、書き取りが8問、読みが4問の計12問です。全教科で平均的に得点すると仮定して、合格最低ラインはほぼ65%程度になると予想しています。国語の性格上、問題は易から難という配列になっていないので、いかに易しい問題から取り組んでいくかがポイントです。まずは(3)の漢字、次に自分の得意とするジャンルの問題文から着手するのが望ましく、難しい問題は後回しにする勇気を持ってください。〈採点基準〉読解問題の配点は客観問題で1～4点、記述問題は4～6点が目安です。記述問題は、内容に応じ中間点を与えますが、指定字数を無視した解答はすべて0点扱いになります。一方、漢字は各1点。「とめ・はね・はらい」など、極端に厳格なチェックはしませんが、あいまいな字や画数が変わってしまうような乱れた表記は0点とします。

理科

入試問題の傾向は大問が5題で、物理・化学・生物・地学分野からそれぞれ1題ずつです。残りの1題はこの4分野からもう1題を出題します。小学校3年生の教科書にまでさかのぼって満遍なく学習してください。大問の中の小問は簡単なものから順に並べるようにしていますが、大問自体は簡単な順に並んでいるとは限りませんので、得意な分野の問題から解いていくことをお勧めします。また、教科書の身近な応用や理科的教養にかかわる問題が出題されることがあります。特別に指示がない限り、漢字で書かなくても減点にしません。計算問題で単位を書き忘れたり、「○つ答えなさい」「記号で答えなさい」などの問題の指示に従わなかったりすると減点になります。

社会

1番は歴史の問題で、配点は25%程度。特定の時代に偏ることなく満遍なく出題します。2番が地理で20%、3番が公民分野からの出題で、配点は15%程度になります。4番と5番に「時事問題」と「仲間はずれ問題」が配列され、合わせて15%弱の配点になります。「時事問題」の対象は一応12月までが範囲になると考えてください。また「仲間はずれ

問題」は分野の指定はありません。そして、6番が「総合問題」です。これは森村の社会科学問題の特徴といってもよい問題ですから、過去にどのような問題が出ているかを調べてみてください。配点は25%を目安にしています。特別難しい知識を要求することはありませんが、考える力を見たいと思っているので、記述は多くなってきます。ふだんから問題に接したときに自分で考えることを心がけ、また自分の考えを文にまとめる練習をしてください。なお、問題量・構成ともに例年と同じようなものになります。特に指示のある場合を除けば漢字で答えなくても正解とします。また、論述問題は国語の試験ではないので、文法などを厳格にチェックすることはしません。